

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットA		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺地域に住宅が少ない環境であるが、地域との繋がりを大切にしており、地区行事への積極的な参加や日常から交流を図りながら、生活しています。日頃から温泉を利用でき、敷地内には遊歩道を整備しており、自然に触れながらの散歩が可能です。最近では体育館を利用した運動を取り入れており、雨天時でも活動出来る環境です。また、職員配置は全員常勤のスタッフであり、人の変化が少ない環境で生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ 地域との付き合いは、地域の一員として自治会に加入し、積極的に活動している。また、毎月区より利用者全員に「市報」が届き、地域とのつながりを大切にしている。
- ・ 運営推進会議には、小学校の教諭や幼稚園長・自治委員・民生委員・家族など多くの参加者があり、関心の深いテーマに沿って話し合いがなされ運営に反映している。
- ・ 敷地内に遊歩道があり、自然に触れ合いながら、日常的に外出支援が行われている。また、体育館での運動・手芸・水墨画など潜在能力を見出しながら、寄り添うケアが提供されている。
- ・ 職員は全員常勤で在籍年数が長く、管理者のリーダーシップのもと、利用者本位のサービスが行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やその家族、地域とのつながりを重視した理念を掲げ、スタッフ間で共有しているが、より具体化する為、見直しも必要である。	理念は「利用者や家族・地域とのつながりを大切にする」と明文化しており、目に触れやすい場所に掲げ、日々振り返っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域や施設間の双方向的な行事を通じたつながりを構築している。また、保育園、幼稚園、民生委員等との交流会を通じ、地域との関わりを深めている。	地域の一員として自治会に加入し、積極的に地域活動に参加している。保育園や幼稚園児、民生委員との関わりを大切にしている。また、自治委員は毎月、利用者全員に市報を届けてくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームが地域住民として受け入れられており、地域の会議に職員が出席し、理解を広める活動を実践している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、特に今年度は特に防災について話し合われている。地域の幼稚園との交流にも繋がり、活動が広がっている。	運営推進会議は奇数月に開催されており、参加者は、小学校の教師・幼稚園長・家族・自治会長・地域包括支援センターなどである。関心の深いテーマに沿って、話し合いが行われ、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には外部評価結果や運営推進会議の議事録(会議資料)を提出しており状況を報告している。	運営推進会議に行政の参加は得られていないが、市の担当者に運営推進会議の議事録や外部評価の結果を提出し、状況を報告している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護についての研修会や委員会活動により、身体拘束に対する理解を深めている。また、利用者の外出傾向を把握し、外出後の行動を把握する様にしている。	身体拘束について、権利擁護の研修会や法人内での委員会の活動を通じて理解を深めている。離脱傾向のある利用者に対して、職員は常に目を離さないようにし、さりげなくホームへ誘導している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会を開催し、利用者や家族の言動を注意深く観察しながら、虐待の早期発見や防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内の研修において学習し、必要性の高い利用者には制度利用について情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書の内容や事業所の理念、方針、対応できる範囲等の疑問点を確認しながら説明し、同意を得ている。また、退居後の対応や料金の変更が生じた場合の対応についても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内の行事へ参加を働き掛け、家族訪問には利用者の状況を報告すると共に、要望等を確認する様になっている。また、運営推進会議にも1名の家族が参加しており、要望を確認している。	運営に関する意見は、面会や電話・バス旅行時に、気軽に相談を受けている。また、運営推進会議で家族代表の要望を確認し、運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、職員からの提案を把握しており、必要に応じて代表者に改善を求めている。日頃から多くの職員から意見を求め、改善に向けて取り組んでいる。	毎月、職員会議や介護サービス向上委員会などを通じて、提案や意見を検討している。必要であれば代表者に改善を求め、働きやすい職場をめざしている。異動も少なく、馴染みの関係が保たれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課や資格取得を給与水準に反映している。また、小規模の施設の為、管理者はサービスに影響するスタッフ同士の人間関係の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	偶数月にはスタッフ全員を対象とした研修を開催している。また、法人内の研修にも参加できる。さらに市内のグループホームの協議会が開催する研修にも参加し、その他の外部研修にも出来るだけ参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム開設予定である事業所からの実習も受入れており、市内のグループホームのネットワークにより研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に数日間通っていただき、利用者やスタッフと交流する事で不安を和らげている。また、訪問出来ない場合には短期利用共同生活介護の利用を勧め、一旦自宅に戻った後に利用を開始している。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階での訪問を依頼しており、入居後の姿を想像していただき、入居決定後も不安や要望等の把握に努めている。継続して相談出来る体制を確保している。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントにより、出来るだけ早い段階での意向確認しており、利用していたサービスの継続性についても検討している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動について過不足なく説明し、自己決定を促しており、希望する活動を自らが選択し、対等な関係作りを意識している。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割について説明し、訪問や将来起こる事について予測しながら家族の役割を明確にしているが、疎遠となっている家族もいる。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に馴染みの美容院に行く利用者や図書館を利用する方もあられ、交流が途切れないように働きかけているが、長期の入院を経て入居する利用者も多く、馴染みの関係の持続は難しい場合もある。	馴染みの関係が途切れないように、行きつけの美容院や図書館に行ったり、大型のスーパーでの買い物や食事に出かけている。また、利用者の意見をもとに、思い出深い長崎に家族と一緒にバス旅行に行ったこともある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を構築できている利用者は特に問題ないが、関係が悪化している場面もある。活動や行事を通じ、関係の修復に努めている。スタッフが話題を提供して関わり合う場合もある。			

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をきっかけに利用が終了するケースが多く、退院後まで継続して支援している。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	活動が漫然としている状況でも活動の中から意向を把握する様にしており、豊かな生活へ繋がる様にしている。	日常の会話やしぐさなどから、思いや意向を把握している。また情報収集は、きめ細かなアセスメントシートを用いて、家族にこれまでの暮らしぶりを聞き、職員間で検討をしている。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で利用者の生活歴を中心とした経験を把握し、入居時には家族の視点で今までの生活状況等を確認している。また、家族に入居後の利用者の言動を伝え、意味に繋がる情報を得る様にしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の起床時間や活動しやすい時間、就寝時間等を観察、把握し、スタッフ全体で共有している。また、活動の時間帯には利用者の能力を活かした活動に繋げている。	
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向は日常生活からの把握が可能である。家族とは入居前後に話し合う機会を設定しているが、継続出来ていない場合が多く、機会が少ない状況である。介護計画を説明する際には意向を確認している。	家族や利用者の意向をもとに、「できること・できないこと」を明らかにして、これまでの暮らしが続けられるように利用者本位の計画書を作成している。定期的にモニタリングし、見直している。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言動や表情、自主的な行動等のより良い生活に繋がる記録が乏しい。より良いケアに繋がる記録を意識する必要がある。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運動を好む利用者に対し、体育館を開放し、雨天時でも活動出来る環境を整えている。また、地域の図書館の利用等柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や公民館、近所のスーパー等を積極的に利用し、趣味や行事を楽しめる様になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期間の入院を経て入居するケースが殆んどであるが、病気に応じて医療機関を選択出来る様に説明している。定期的な受診は併設されている医療機関を選択する利用者が多い。	医療機関は、利用者や家族に聞き、病状に応じて専門医を受診している。定期的な受診は、併設の医療機関や訪問看護と連携をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておらず、外部の訪問看護ステーションとの契約により看護師を確保しており、随時相談や緊急時の訪問が可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合でも随時訪問し、医療機関のスタッフとの情報交換を行っている。退院後に不安がある場合も併設する医療機関への再入院が可能な状態である。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議や契約時において議題として話し合っており、将来考えられるケースを紹介して、家族として出来る事やグループホームで出来る範囲を説明している。	契約時に重度化や終末期について説明を行っている。また、運営推進会議で終末ケアを議題として取り上げ、家族として出来ること・事業所でできる範囲を話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内外の救急法の研修会に参加しており、緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の議題として地域の防災担当者とも話し合っており、地域にも施設を開放する事になっており、グループホームにおいても各災害を想定し、年2回訓練している。	災害について、運営推進会議で地域の防災担当者と話している。事業所内に「ハザードマップ」を拡大して貼っている。火災や風水害・火山の爆発などを想定して、住民を含めて年に2回、防災訓練を行っている。また、地域の避難場所となっている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活パターンを把握し、帰宅後や就寝前後、起床時に排泄介助する事でプライバシーの確保に努めている。他利用者がいる状況で人格の尊重に影響のある話は避けている。	一人ひとりの誇りや自尊心を傷つけないように、排泄時は他の利用者に悟られないように誘導している。また、一人ひとりに対し、これまで培ってきた生活や職歴などを考慮しながら対応している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者が自分自身で決められる様に過不足なく説明し、思いを表す事が出来る様な働き掛けを心掛けている。職員主導にならないように配慮している。	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前は利用者の意向を確認しないまま、朝食後から清掃していたが、最近は朝食後の一日の始まりにホールにいる利用者にとのように過ごしたいかを確認する様にしている。	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事前には家族の了承の下、衣類を選択し、購入できる機会を作る事でおしゃれに対して意識出来る様にしている。	/
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食と汁物以外は厨房で調理するケースが多く、盛り付けや後片付けが主な活動となるが、月1~2回は利用者と一緒に準備から片付けまで行える機会を作っている。	献立表は写真入りで、解りやすいように拡大している。主食や汁物は事業所で作り、利用者は割烹着姿で盛り付けや食後の後片づけをしている。希望により、月に一度外出に出かけている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が主に献立を立て、食事・水分摂取量に関してはメニュー毎に把握出来る様に記録している	/
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後から就寝前までの口腔ケア(義歯洗浄等)は出来ている。義歯や部分義歯についても就寝時に清潔にしている。	/

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを終始利用している利用者があるが、食後と起床時、就寝前に排泄を働き掛け失敗を軽減する様にしている。	排泄パターンに沿って、トイレ誘導をしている。紙パンツの利用者も、トイレで起床時・食後・就寝前に排尿を試み、排泄の自立を図っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と日頃の運動で便秘を予防しているが、緩下剤を服用している利用者も多い。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から希望に応じて随時入浴出来る体制であるが、介助入浴の利用者が殆んどであり、介護力のある日中に入浴している。	温泉をひいており、いつでも入れるようにしている。毎日入浴する方は2人、他の利用者は週に3回入っている。殆どが介助浴である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を確保し、適度に疲労する事で安眠に繋げている。活動が多い利用者に対しても適度に休息を促しており、職員は就寝までの時間が穏やかに過ごせる雰囲気を作る様に心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された医療機関からの薬剤情報提供書をファイルし、副作用等の把握に努めている。また、変更された服薬についても個別の申し送りノートを活用し、把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の力仕事や調理等各々に役割があり、作品を作る際の折り紙等活躍の場面がある。買い物や市内の公園等への外出もあり、体育館での体操や卓球、その他ボール遊びも取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事は地域のボランティアの協力の下、遠方まで出向き、近所のスーパーや市内の公園、図書館にも外出する機会がある。	季節ごとの外出支援は、ボランティアや家族の協力を得て実施している。日常的な外出支援として、事業所内の遊歩道を一周している。また、バラの花の手入れや、図書館・スーパー・公園などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を周囲に配る利用者がある為、持っていない利用者が多く、買い物等の機会ではスタッフが代行している。夏祭りでは駄菓子屋を開き、小額を持っていただき、支払い出来る機会を作った。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、家族と連絡を取り、交流している。依頼があれば代行してダイヤルし、電話の支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに利用者で作った作品などを飾り、なじみの音楽などを流し、自然と会話が広がるような工夫を心がけている。席からテレビが見易いようにテーブルの位置も配慮している。	玄関やホールは、季節感のある置物やお花・みんなで作った壁掛けを飾っている。ホールでは、なじみの音楽を聴きながら、フラワーづくりなどに勤しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は関係性を考慮し、配席している。昔馴染んだ音楽やビデオなどを流し、居心地のよい場を整えている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品や、安心して生活できる物品で、利用者が居心地のよさを感じてもらえるように工夫している。また、家族には継続して環境整備の協力を求めている。	一人ひとりの部屋の入り口に、趣味の作品や写真・花などが置かれている。居室は、スポーツ選手だった頃の品や写真・水墨画・絵画集など、その人らしさが見えてくる居室づくりである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自主的に活動出来るようにさりげなく、視界に入る場所にレクリエーションの道具、雑誌、新聞等を配置している。炊事も一連の動作が行える様に配置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201205		
法人名	医療法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム やまなみ ユニットB		
所在地	大分県別府市大字南立石274-2		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺地域に住宅が少ない環境であるが、地域との繋がりを大切にしており、地区行事への積極的な参加や日常から交流を図りながら、生活しています。日頃から温泉を利用でき、敷地内には遊歩道を整備しており、自然に触れながらの散歩が可能です。最近では体育館を利用した運動を取り入れており、雨天時でも活動出来る環境です。また、職員配置は全員常勤のスタッフであり、人の変化が少ない環境で生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【ユニットAに記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やその家族、地域とのつながりを重視した理念を掲げ、スタッフ間で共有しているが、より具体化する為、見直しも必要である。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域や施設間の双方向的な行事を通じたつながりを構築している。また、保育園、幼稚園、民生委員等との交流会を通じ、地域との関わりを深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームが地域住民として受け入れられており、地域の会議に職員が出席し、理解を広める活動を実践している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、特に今年度は特に防災について話し合われている。地域の幼稚園との交流にも繋がり、活動が広がっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者には外部評価結果や運営推進会議の議事録(会議資料)を提出しており状況を報告している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護についての研修会や委員会活動により、身体拘束に対する理解を深めている。また、利用者の外出傾向を把握し、外出後の行動を把握する様にしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会を開催し、利用者や家族の言動を注意深く観察しながら、虐待の早期発見や防止に努めている。		

事業者名: グループホームやまなみ ユニットB

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内の研修において学習し、必要性の高い利用者には制度利用について情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書の内容や事業所の理念、方針、対応できる範囲等の疑問点を確認しながら説明し、同意を得ている。また、退居後の対応や料金の変更が生じた場合の対応についても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内の行事へ参加を働き掛け、家族訪問には利用者の状況を報告すると共に、要望等を確認する様にしている。また、運営推進会議にも1名の家族が参加しており、要望を確認している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、職員からの提案を把握しており、必要に応じて代表者に改善を求めている。日頃から多くの職員から意見を求め、改善に向けて取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課や資格取得を給与水準に反映している。また、小規模の施設の為、管理者はサービスに影響するスタッフ同士の人間関係の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	偶数月にはスタッフ全員を対象とした研修を開催している。また、法人内の研修にも参加できる。さらに市内のグループホームの協議会が開催する研修にも参加し、その他の外部研修にも出来るだけ参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム開設予定である事業所からの実習も受入れており、市内のグループホームのネットワークにより研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に数日間通っていただき、利用者やスタッフと交流する事で不安を和らげている。また、訪問出来ない場合には短期利用共同生活介護の利用を勧め、一旦自宅に戻った後に利用を開始している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階での訪問を依頼しており、入居後の姿を想像していただき、入居決定後も不安や要望等の把握に努めている。継続して相談出来る体制を確保している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントにより、出来るだけ早い段階での意向確認しており、利用していたサービスの継続性についても検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動について過不足なく説明し、自己決定を促しており、希望する活動を自らが選択し、対等な関係作りを意識している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割について説明し、訪問や将来起こる事について予測しながら家族の役割を明確にしているが、疎遠となっている家族もいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に馴染みの美容院に行く利用者や図書館を利用する方もあられ、交流が途切れないように働きかけているが、長期の入院を経て入居する利用者も多く、馴染みの関係の持続は難しい場合もある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を構築できている利用者は特に問題ないが、関係が悪化している場面もある。活動や行事を通じ、関係の修復に努めている。スタッフが話題を提供して関わり合う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をきっかけに利用が終了するケースが多く、退院後まで継続して支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中での利用者の「声」を大切に取る取組みをしており、利用者の思いの把握に努めている。また、家族の訪問時の言動を確認し、暮らしの希望の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で利用者の生活歴を中心とした経験を把握し、入居時には家族の視点で今までの生活状況等を確認している。また、家族に入居後の利用者の言動を伝え、意味に繋がる情報を得る様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の起床時間や活動しやすい時間、就寝時間等を観察、把握し、スタッフ全体で共有している。また、活動の時間帯には利用者の能力を活かした活動に繋げている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向は日常生活からの把握が可能である。家族とは入居前後に話し合う機会を設定しているが、継続出来ない場合が多く、機会が少ない状況である。介護計画を説明する際には意向を確認している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言動や表情、自主的な行動等のより良い生活に繋がる記録が乏しい。より良いケアに繋がる記録を意識する必要があり、ケース記録の他に気づきメモを活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運動を好む利用者に対し、体育館を開放し、雨天時でも活動出来る環境を整えている。		

事業者名: グループホームやまなみ ユニットB

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館、近所のスーパー等を積極的に利用し、趣味や行事を楽しめる様にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期間の入院を経て入居するケースが殆んどであるが、病気に応じて医療機関を選択出来る様に説明している。定期的な受診は併設されている医療機関を選択する利用者が多い。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておらず、外部の訪問看護ステーションとの契約により看護師を確保しており、随時相談や緊急時の訪問が可能である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合でも随時訪問し、医療機関のスタッフとの情報交換を行っている。退院後に不安がある場合も併設する医療機関への再入院が可能な状態である。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議や契約時において議題として話し合っており、将来考えられるケースを紹介して、家族として出来る事やグループホームで出来る範囲を説明している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内外の救急法の研修会に参加しており、緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の議題として地域の防災担当者とも話し合っており、地域にも施設を開放する事になっており、グループホームにおいても各災害を想定し、年2回訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関しては周囲から悟られない様に配慮し、居室で対応する様にしている。周囲に悟られる事で孤立感が生じる利用者もいる為、周囲の関係性を考慮しながら対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者が自分自身で決められる様に過不足なく説明し、思いを表す事が出来る様な働き掛けを心掛けている。職員主導にならないように配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な支援を心がけ、利用者ひとりひとりのペースを大切にしているが、入浴を中心にスタッフの都合を優先している場面もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣を把握し、女性であれば、化粧水、乳液などを揃え、使用できる状況を作っている。理美容についても希望を聞いて、パーマ、髭剃りが出来る環境である。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食と汁物以外は厨房で調理するケースが多く、盛り付けや後片付けが主な活動となるが、月1~2回は利用者と一緒に準備から片付けまで行える機会を作っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が主に献立を立て、食事・水分摂取量に関してはメニュー毎に把握出来る様に記録している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後から就寝前までの口腔ケア(義歯洗浄等)は出来ている。義歯や部分義歯についても就寝時に清潔にしている。		

事業者名: グループホームやまなみ ユニットB

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを終始利用している利用者がいるが、食後と起床時、就寝前に排泄を働き掛け失敗を軽減する様にしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握と日頃の運動で便秘を予防しているが、緩下剤を服用している利用者も多い。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後から希望に応じて随時入浴出来る体制であるが、介助入浴の利用者が殆んどであり、介護力のある日中に入浴している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を確保し、適度に疲労する事で安眠に繋げている。活動が多い利用者に対しても適度に休息を促しており、職員は就寝までの時間が穏やかに過ごせる雰囲気を作る様に心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された医療機関からの薬剤情報提供書をファイルし、副作用等の把握に努めている。また、変更された服薬についても個別の申し送りノートを活用し、把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣を把握し、盆栽を育てて花が咲くのを楽しみにしている利用者や折り紙で作品を作る女性利用者等、力が発揮できる場面を作っている。体育館での体操や卓球、その他ボール遊びも取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事は地域のボランティアの協力の下、遠方まで出向き、近所のスーパーや市内の公園にも外出する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額持ち、買い物等で支払う利用者もいる。管理が難しい利用者についても買い物の際に職員が代行している。夏祭りでは駄菓子屋を開き、小額を持っていただき、支払い出来る機会を作った。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、家族と連絡をとっている利用者や、部屋に電話を設置し、家族や親戚と交流している利用者もいる。毎年の年賀状のやり取りを楽しみにしている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに利用者が作った作品などを飾り、なじみの音楽などを流し、自然と会話が広がるような工夫を心がけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は関係性を考慮し、利用者によっては他者の視線を気にされることもあり、違和感のないようにテーブルを飾る工夫をしている。昔馴染んだ音楽やビデオなどを流し、居心地のよい場を整えている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品や、安心して生活できる物品で、利用者が居心地のよさを感じてもらえるように工夫している。また、家族には継続して環境整備の協力を求めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自主的に活動出来るようにさりげなく、視界に入る場所に清掃用具やレクリエーションの道具、新聞などを配置している。炊事も一連の動作が行える様に配置し、屋外へ自由に洗濯物を干せる環境であ		